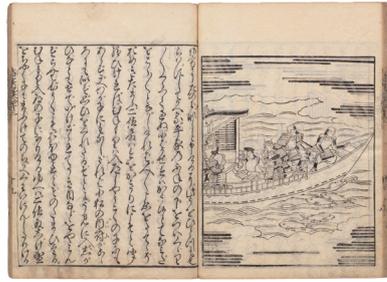
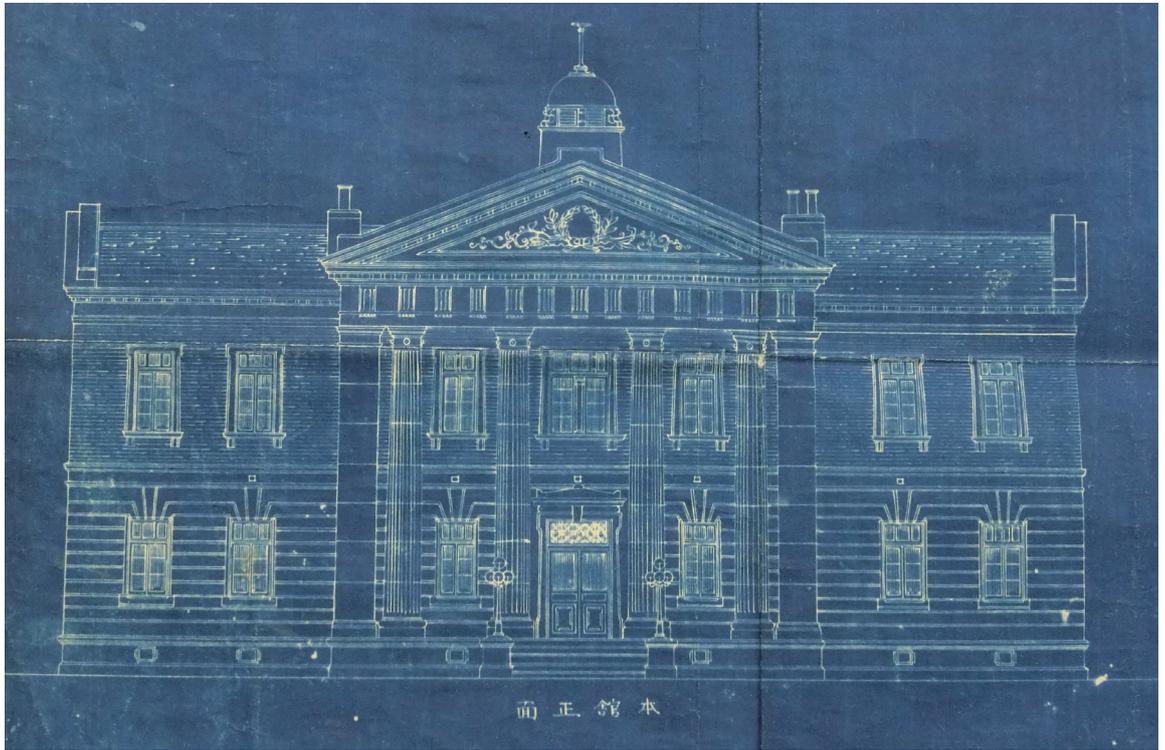


国立公文書館ニュース

Vol. **43**
2025.9～2025.11

｜ 特集 ｜

設立140周年 内閣文庫ができるまで



【連載】

| | |
|-------------------|---|
| 今号のアーカイブ..... | 5 |
| Information | 6 |
| アーキビストに聞く..... | 7 |
| 展示会情報..... | 8 |



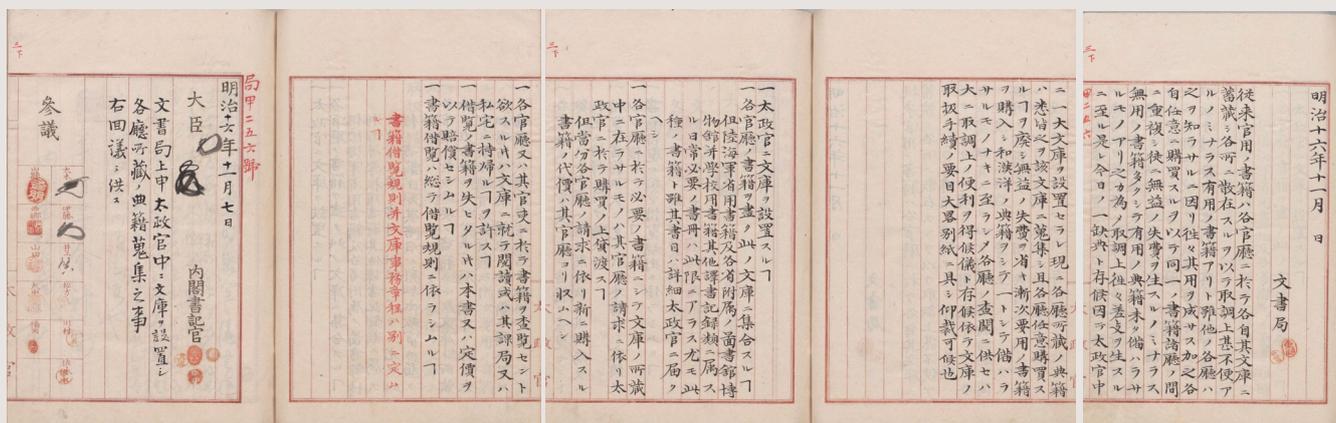
設立140周年

内閣文庫ができるまで



本年は、明治18年（1885）の内閣制度創設に伴い、太政官文庫が「内閣文庫」と改称されてから140周年となります。

その蔵書には、紅葉山文庫、昌平坂学問所、和学講談所の和書・漢籍など江戸幕府から引き継がれたものや、明治政府が収集した文書・図書も多く含まれています。その成り立ちと、それぞれの代表的な資料をご紹介します。

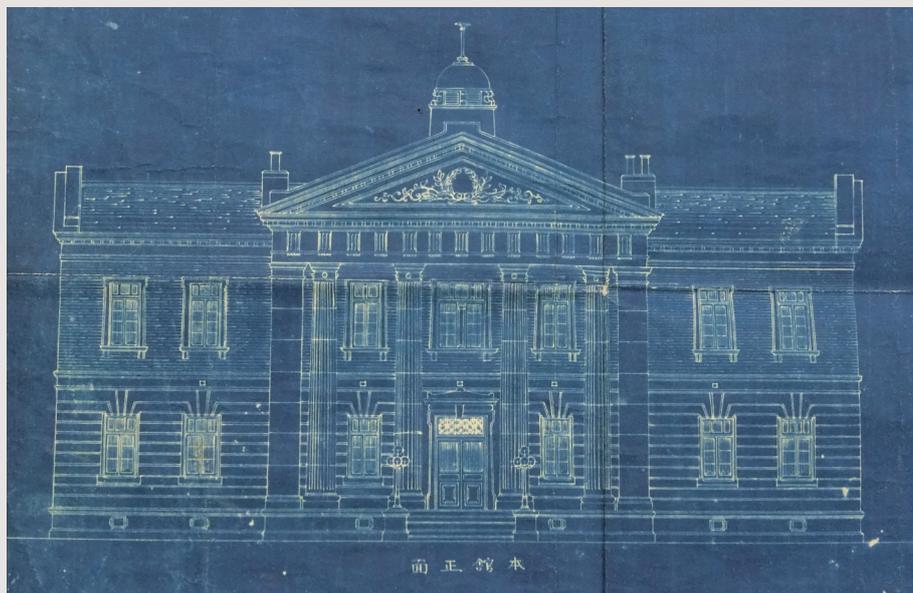


内閣文庫の前身となる太政官文庫設置の上申書（明治16年11月）『公文録』より

請求番号：公03456100

内閣文庫は明治6年（1873）、赤坂離宮内に置かれた太政官図書掛に始まります。

やがて各官庁の所蔵図書を集中管理する太政官文庫となり、明治18年（1885）、内閣制度創始と同時に内閣文庫と改称されました。以来、和漢の古典籍・古文書を所蔵する我が国屈指の専門図書館として内外の研究者に親しまれてきました。現在は国立公文書館に移管され、一般の方にも広くご利用いただくことができます。



「内閣所属書庫新営設計図（4）建図及切断（甲）」

請求番号：平23公文00871100

明治44年（1911）から昭和46年（1971）まで、内閣文庫は皇居大手門内にありました。

画像は、庁舎新築時の事務棟設計図です。現在の国会議事堂建築にも携わった大熊喜邦（1877-1952）が設計を行いました。

昭和46年、北の丸公園に開館した国立公文書館へ内閣文庫が移管されたのち、この庁舎は昭和60年（1985）に解体、建物の一部は愛知県犬山市の博物館明治村に移築されました。





内閣文庫の成り立ち

紅葉山文庫

～将軍家のアーカイブ～

慶長7年(1602)に、徳川家康が江戸城内富士見亭に御文庫を建て、自らの蔵書を取めたのが始まり。寛永16年(1639)に城内の紅葉山に移設したことから、のちに「紅葉山文庫」と呼ばれました。幕末には土蔵が4棟まで増築される蔵書量に。歴代の将軍は、この蔵書を利用して過去の歴史を学ぶなどして政治に役立てたと言われます。

昌平坂学問所

～林家歴代と官立学校のコレクション～

林羅山が寛永7年(1630)に設立した私塾を起源とし、元禄3年(1690)湯島へ移転、寛政9年(1797)に幕府の教育機関となって「学問所」と改称されました。しばしば火災によって蔵書は焼失してしまいましたが、その都度、諸大名から図書が献上され、補充したとされます。林家当主の蔵書であった数々の和漢籍のほか、学問所で編纂された地誌なども所蔵していました。

和学講談所

～多くの門弟を育てた学問所～

寛政5年(1793)に塙保己一が創立した学問所。同7年(1795)官立に準ずる機関となり、国史や律令の講習、史料編纂事業のほか、門人たちを京都につかわして古書を写させ、多くの学術的価値の高い資料を所蔵していました。

内閣文庫へ



※所蔵資料には明治政府が購入・収集した文書・図書なども含まれます

ラクガキ？ 足あと？ 内閣文庫のユニーク資料

『平家物語』

請求番号 203-0153



挿絵は「三井寺炎上」の場面。僧たちが消火作業をしています。右下にいるのは女性…？
実は旧蔵者の落書きで、僧の頭に髪を書きってしまったようです。

『柳営日記』

請求番号 164-0018

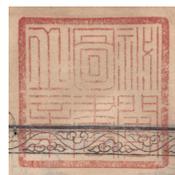


幕府の公式の記録。ですが、よく見るとなんと猫の足跡！当時の役所に猫がいたのでしょか？

公的な記録に思いがけず猫が登場することで、歴史の重みと生活感がふと交差する瞬間が感じられます。

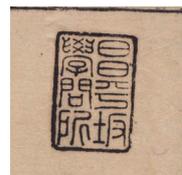


資料のルーツが分かる！！ 蔵書印



秘閣図書之章

江戸時代、「御文庫」と呼ばれていた紅葉山文庫では蔵書印の類は使用されなかったと言われています。明治維新後、これらの印が紅葉山旧蔵本に捺されました。



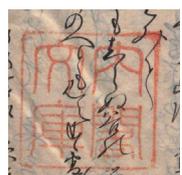
昌平坂学問所

昌平坂学問所の蔵書印。寛政9年(1797)に昌平坂学問所が開校されてから、明治維新によって昌平坂学問所が廃止されるまで用いられました。



和学講談所

和学講談所の蔵書印。同所の旧蔵本には、「温故堂文庫」などの印も確認されます。「温故堂」とは和学講談所創立者である塙保己一の書斎名です。



内閣文庫

内閣文庫の蔵書印。意外にも、こちらが使用され出したのは昭和8年(1933)以降。それまでは「図書局文庫」「日本政府図書」などの印が用いられました。



国立公文書館イチオシ！

内閣文庫の資料たち

ここでは、江戸時代から所蔵されてきた代表的な資料をルーツごとに紹介します。

紅葉山文庫



ぜんそうへいわ
全相平話

請求番号：重 002-0002

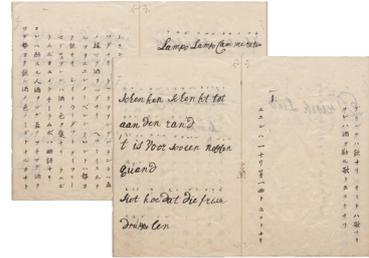
中国の歴史上の出来事を、大衆向けに脚色した挿絵付き歴史物語。内閣文庫に所蔵されているのは元時代の至治年間(1321～1323)に刊行されたもので、現存する世界唯一の刊本です。全5冊。



ちよう や きゆうぶんほうこう
朝野旧聞叢藁

請求番号：258-0010

徳川氏創業の事績とその関係史料を集大成した、徳川氏及び家康の事績録。幕命により20年余りをかけて編纂され、全1,083冊と大部ですが、家康に関する部分が1,000冊以上を占めます。



おらんだかんじゆ かやく
和蘭勸酒歌訳

請求番号：特 122-0011

サツマイモの普及で知られる青木昆陽が、八代將軍吉宗の命で始めたオランダ語学習の成果として献上したもの。オランダ語の原文に、片仮名の発音とその訳文が記されています。全1冊。

昌平坂学問所



げんぺいじょうすいき
源平盛衰記

請求番号：167-0043

源平合戦を描いた軍記物語。全48冊。壇ノ浦で両軍が決戦を迎えた矢先、イルカの大群が現れ勝敗を占います。本文がイルカを「大魚」と表現しているため、挿絵では魚の大群として描かれています。



み ききぐさ
視聴草

請求番号：217-0034

江戸末期の旗本宮崎成身が、さまざまな資料や情報を収集した「視聴草」(全176冊)。「天明の浅間焼け」として知られる天明3年(1783)7月8日の浅間山の大噴火について、5月から7月まで噴火、噴煙が変化していく様子が描かれています。

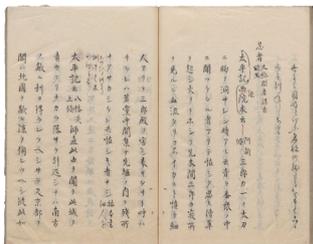


せつもんかいじ
説文解字

請求番号：278-0043

後漢の学者許慎による、中国の現存する最古の漢字字書。全10冊。文政9年(1826)に日本で印刷・刊行され、昌平坂学問所に収められました。学問が時代や国境を超え、大切に引き継がれてきたことをよく表している資料です。

和学講談所



ぶけみょうもくしやう
武家名目抄

請求番号：153-0277

和学講談所を創立した塙保己一が編纂の幕命を受け、没後は門下が引継ぎ、幕末に完成しました。武家に関する制度、用語、装束や儀式などについてさまざまな史料を引いて解説した、和学講談所の代表的な編纂物です。全27冊。



きんかいわ かしゆう
金槐和歌集

請求番号：201-0455

歌人としても有名な鎌倉幕府第3代將軍源実朝の歌集。建暦元年(1211)に詠んだ「時によりすくれ巴民のなげき也 八大龍王雨やめたまへ」は、民を思う実朝の心を表した歌として有名です。全1冊。



たいへいきたいぜん
太平記大全

請求番号：167-0084

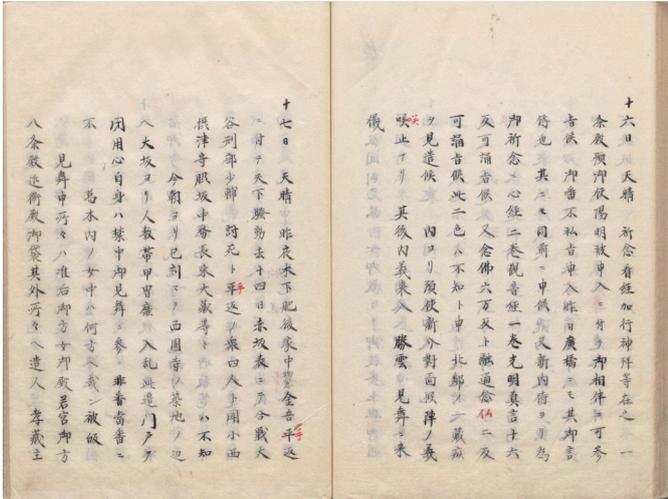
南北朝期を舞台とした「太平記」に注を付けたもの。説話などが混じっていて、「歴史書」より「物語」として扱われることが多い軍記物語ですが、このような書物も幕府の学問所に収蔵されていました。全49冊。

もっと読みたい！という方はデジタルアーカイブをご覧ください。



当館は、江戸幕府から引き継いだ古書・古文書、国の行政機関から移管された公文書等を保存し、利用に供しています。

当館の所蔵資料の中から、今号の時季(9～11月)にまつわる資料をご紹介します。



ときよしきょうき
時慶卿記

公家の西洞院時慶(にしのとくいんときよし、1552～1640)の日記。全72冊。太政官正院歴史課・修史局・修史館・内閣臨時修史局旧蔵。

慶長5年(1600)9月15日、家康方約7万人、三成方約8万人が関ヶ原(岐阜県不破郡)で対峙しました。関ヶ原の戦いです。

この時慶卿記にも、「金吾」(小早川秀秋)の裏切りや、大谷吉継の討死等、関ヶ原の戦いについての詳細が書かれています。また、御所周辺が不穏な状態になることを危惧していることもうかがえます。

請求番号 159-0211

デジタル展示
「徳川家康一将軍家蔵書からみるその生涯」



デジタルアーカイブ



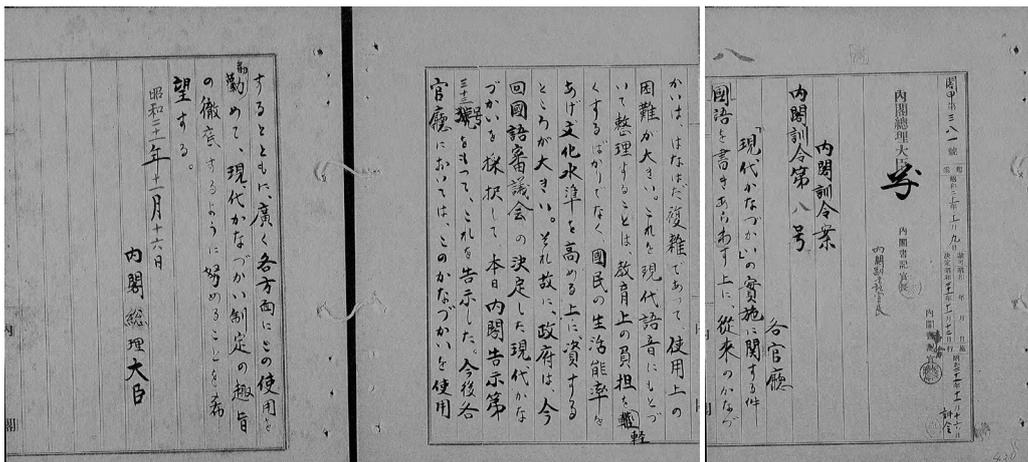
昭和21年内閣訓令第8号「現代かなづかい」の実施に関する件

国民の読み書きの負担を軽減し、教育上、社会生活上の能率を高めるため、国語の書き表し方の基準として、文部大臣の諮問機関である国語審議会(会長安倍能成)は、「現代かなづかい」、「当用漢字表」を決定します。

政府はこの決定を採択し、昭和21年(1946)11月16日に「当用漢字表の実施に関する件」(内閣訓令第7号)、「『現代かなづかい』の実施に関する件」(内閣訓令第8号)により、官庁においてこれらを使用するとともに、広く各方面にこの使用を勧めて、その制定の趣旨を徹底するように努めることとしました。

掲載資料は「『現代かなづかい』の実施に関する件」(内閣訓令第8号)です。

請求番号 類 03014100



デジタル展示
「再建日本の出発」



デジタルアーカイブ



「デジタル展示」
<https://www.archives.go.jp/exhibition/past.html>
東京本館の展示会を再構成し、当館HPで公開しています



「国立公文書館デジタルアーカイブ」
<https://www.digital.archives.go.jp>
当館所蔵資料の目録の検索や画像の閲覧などができます



新たな国立公文書館及び憲政記念館整備工事起工式

令和7年6月2日（月）、新たな国立公文書館及び憲政記念館整備工事起工式が、内閣府及び衆議院主催により、国会前庭北地区にて行われました。

当館からは鎌田薫館長が挨拶を述べるとともに列席者の皆様とともに鍬入れを行いました。



館長挨拶



式会場



鍬入れ式

リトアニア国公文書館庁との協力覚書の交換

令和7年6月10日（火）、当館鎌田薫館長と、リトアニア国公文書館庁インガ・ザクシャウスキエネ長官との間で、アーカイブズ及び記録管理に係る協力覚書の交換が行われました。

覚書署名式には、立会人として、鳩山二郎内閣府副大臣、リトアニア共和国のギターナス・ナウセーダ大統領にご出席いただきました。

この覚書の署名を契機として、両当事者間のアーカイブズ及び記録管理の分野における相互協力及び専門家交流が促進されることが期待されます。



ふらっとツアーのご案内 (令和7年9月～12月)

当館概要の説明後、バックヤード（閲覧室、修復室、書庫設備）を見学し、常設展を観覧するツアーを開催しています（所要時間1時間程度）。

事前申込不要、参加費無料です。ぜひご参加ください。

開催日 9/11(木)、10/16(木)、11/6(木)、12/4(木)

開始時間 各日いずれも13:30～
開催日は、ホームページの【見学予約カレンダー】をご確認ください。





アーカイブズで働く専門職員・認証アーキビストに仕事の醍醐味などを聞くコーナーです。

システムの先に利用者がいる。 その思いで日々仕事に従事

外務省外交史料館 課長補佐 大野 太幹さん

大学院生時代は主に近現代の日中関係史について研究しており、論文を書く際の史料調査のため、よく外交史料館を利用していました。大学院修了後は名古屋近辺の大学で非常勤講師として働いていましたが、アジア歴史資料センターで求人募集があったことから、自分の専門分野を生かせるのではないかと感じ、加えて大学院生時代に何度も同センターのデジタルアーカイブを利用したことがあったため、なじみ深い印象を持っていたことからここで働いてみたいと思いい応募。無事採用されたことで2011年から働き始めました。

アジア歴史資料センターは、他に先駆けでデジタルアーカイブを整備・公開した機関であり、主な業務はデータベースの構築や公開用の画像データの整備、検索用に史料の冒頭300文字等をデータ化する作業、またウェブコンテンツのための原稿執筆やウェブページの管理業務などを中心に行っていました。

ここまでの思い出としては、2015年に終戦70周年を迎えるに当たり特設のウェブコンテンツを作成したことです。本来ならコンテンツ制作には半年ほど時間をかけますが、このときは時間がなく実質4カ



月程度で作業しなければなりませんでしたが、あわせてプライベートでも時間を割かなければならなかったため、必死に作業する毎日を通じて本当に大変でした。しかし、なんとか無事作成を終えて公開したところ反響がとてよよかったため、大きな達成感を覚えたことを今でも思い出します。

その後、2020年にアジア歴史資料センターから外務省外交史料館へ転職し、現在に至ります。当初、外交史料館ではアジア歴史資料センターに提供するためのデジタルデータ作成、および閲覧室業務・レファレンス対応等の仕事をしていましたが、現在はシステム担当として勤務しています。ただ、これまでシステム関連の業務に従事したことがなく、当初は知識ゼロからのスタート。既存システムの運用・保守はもちろん、システムの更新や予算要求にしても一丁の知識は必要不可欠のため、毎

日が勉強の連続でした。現在では一丁に関する資格もいくつか取得することができ、まるで脳が若返った気分になりました。ただ、システム業務に従事する際に忘れてならないのは、その先に利用者がいるということです。自身のスキルアップが、最終的に利用者の役に立つという考えが仕事のモチベーションにつながっています。

日本のみならず、世界各国の先人たちがどのような人生を歩んだかを知ることが、とても興味深いことだと思えます。それを記録した史料に触れられる場所として、外交史料館や国立公文書館があります。ですから、若い方にぜひ足を運んでいただき、外交史料館の史料や展示室をもっと活用してもらいたいと思っています。そして、私自身もシステムを通してそこに貢献していければと考えています。

9～11月の東京本館開館情報

※最新の開館情報については当館HP等をご確認ください。

| | 9月 | 10月 | 11月 |
|-------------|--|---|--|
| 展示室 〔1階〕 | 終戦—戦争の終わりと戦後の始まり— 7/19～9/15 (9/5、12は午後8時まで開館) | 世界へのまなざし—江戸時代の海外知識— 10/11～12/7 (11/16、23、24は休館) | 「大日本帝国憲法」原本特別展示 11/22～12/7 (11/23、24は休館) |
| | 「国会開設の勅諭」原本特別展示 9/20～10/3 (9/21、23、28は休館) | 「新橋横浜間鉄道之凶」原本特別展示 10/4～17 (10/5は休館) | |
| | 基本展示「日本のあゆみ」 | | |
| 閲覧室 〔2階〕 | * 開室日：月曜日～土曜日、展示会開催期間中の日曜日 * 開室日：9/21(日)、9/23(火・祝)、9/28(日)、10/5(日)、11/16(日)、11/23(日・祝)、11/24(月・振休) * 開室日：火曜日～土曜日(日曜日、月曜日、祝日は閉室) * 時 間：午前9時15分～午後5時(入室・当日閲覧受付は午後4時30分まで) | | |



展示会情報

令和7年度第2回企画展

内閣文庫140周年記念 世界へのまなざし

—江戸時代の海外知識—



開催時間：午前9時15分～午後5時

江戸幕府は海外との窓口を長崎・対馬・薩摩・松前の4か所に限り、国際関係を統制していました。8代将軍徳川吉宗は輸入書籍の制限を緩和し、以後様々な海外知識が国内へ流入しました。海を渡ってきた新しい知識は、どのように江戸時代の人々に受け入れられたのでしょうか。本展では、18世紀を中心に日本に来航した外国使節や輸入書籍、江戸時代を代表する文化人たちの海外研究に関する著作をご紹介します。



▲西洋紀聞

『西洋紀聞』は、新井白石(1657-1725)が、密入国したイタリア人宣教師のシドッチから得た知識をもとに著述した書で、当時としては高い世界地理知識を有します。キリスト教に関する記事を含むために新井家に秘匿されてきましたが、寛政5年(1793)、幕府の命令により献上されました。展示資料は、紅葉山文庫旧蔵書で新井白石の自筆本です。

請求番号：特 068-0003



▲北夷分界余話(重要文化財)

※資料保存のため、会期中、展示替えを行います。

『北夷分界余話』は、間宮林蔵(1775-1844)のカラフト調査に基づく口述を編集・筆録したカラフトの地誌・民俗誌です。彩色図96図を用いてカラフトアイヌの生活が忠実に描かれています。展示資料は、紅葉山文庫旧蔵書で、「間宮林蔵北蝦夷等見分関係記録」として平成3年(1991)に国の重要文化財に指定されました。

請求番号：特 094-0003



▲御書物方日記(重要文化財)

『御書物方日記』は、将軍の図書館・アーカイブズである紅葉山文庫の書物奉行の約150年間にわたる業務記録です。記述の内容は、蔵書の管理・出納、目録類の編纂など多岐にわたります。展示資料は、「江戸幕府書物方関係資料」として平成30年(2018)に国の重要文化財に指定されました。

請求番号：257-0002

予告

「新橋横浜間鉄道之図」原本特別展示

展示期間：10月4日(土)～17日(金) (10月5日(日)は休館)
常設展示室で展示します。



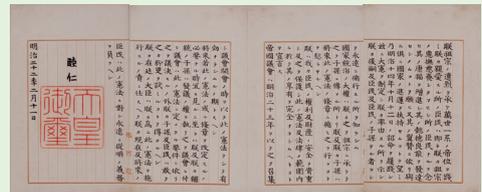
【展示解説会】

日時：10/17(金)、10/30(木)、11/17(月) (いずれも午後2時～)
事前申込制、詳細は国立公文書館HPをご覧ください。

※ 期間中の金曜日は午後8時まで開館
会場：国立公文書館東京本館

「大日本帝国憲法」原本特別展示

展示期間：11月22日(土)～12月7日(日)
(11月23日(日・祝)、24日(月・振休)は休館)
常設展示室で展示します。



「国立公文書館 友の会」 会員募集中!

詳しくは
こちらから



ホームページ



国立公文書館ニュースweb版

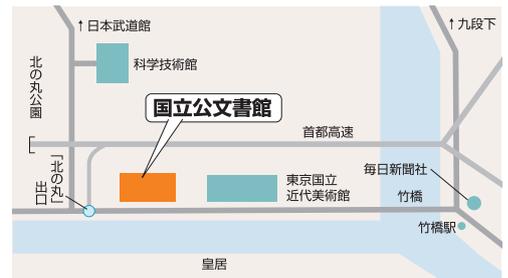


X(Twitter)



Facebook

国立公文書館
東京本館
アクセス



【東京本館】 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3番2号
電話03-3214-0621 (代表) FAX 03-3212-8806
【つくば分館】 〒300-4246 茨城県つくば市上沢6番6号
電話029-867-1910 (代表) FAX 029-867-1939